

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 子ども未来サポートルームEL		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 20日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 名	(回答者数) 26 名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 10日		2026年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 名	(回答者数) 6 名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校や園での運動場面を想定した、小集団での運動療育を行っています。	心身の健康に大切な身体活動を60分間行うようにしている。運動遊びを通して「できた」という成功体験を積み重ねられるよう、一人ひとりの苦手な動きを把握し、スモールステップで段階的に取り組めるよう工夫しています。また、就学後を見据え、体育の授業につながる課題を意識的に取り入れています。	さらなるスタッフの意識や資質向上を目指して、運動の種類を増やし、子ども達が楽しみながら活動できるように取り組んでいきたいと考えています。
2	ABA(応用行動分析)を用いた関わりを行っています。	困り事や困った行動に対して、ABC分析(出来事→行動→結果)を実施し活動を通して支援を行っています。保護者の方も対応方法としては取り入れやすい内容と考えています。	職員間での対応の統一を図るため、ABA研修を全スタッフ受け付けていきます。また、情報共有等をしっかりを行い、支援に携わるすべての方と相互理解ができるように努めます。
3	保護者の方と顔を合わせる頻度が高く、密に関わりを持っています。また事業所の雰囲気などが保護者の方に伝わりやすく開かれた環境です。	家族送迎時に、療育内容や本人の様子など随時口頭でお伝えしています。また、本人の様子をモニターで見学していただいたり、実際に療育に参加していただき、保護者の方に対応方法等を助言させていただく機会を設けています。	全スタッフが保護者の方に対応できるよう、スキルの向上を目指します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の方やこどもと関わる機会が少ない。	利用時間が短時間なため、時間が限られている。	短時間な利用のため、イベントや関わる機会を設ける。
2			
3			